



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校

令和7年7月1日

7月号

【学校教育目標】

「夢と希望をもち、
よりよい社会づくりに向け
行動する児童の育成」

子供もつくる「楽しい学び・楽しい学校」

校長 加藤 貴嗣

先日の学校公開には、多くの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。

また、授業公開前に行いました「学校の学び説明会」にご参加の皆さまには、早い時刻からお時間をいただきましたこと誠にありがとうございました。

説明会では、人生100年時代を生きる子供たちが大人になって幸せに暮らせるように、どのような学校、どのような授業を目指しているかについてお話しさせていただきました。ご参加いただいた方からはシリーズ化をといううれしいご感想もいただきましたので、次の機会を考えてまいります。

さて、喜沢小学校では、一人一人の多様な Well-being を実現するため、子供たちが「学びが楽しい」「学校生活が楽しい」と言える学校を目指してきました。そして、今年度は「学びが楽しい」「学校生活が楽しい」を子供たちも受け身ではなく、「楽しい学び」「楽しい学校」づくりに主体的に関わるように「私は何をしに学校へ？」をキャッチフレーズにしています。

そこで、先月号でもお伝えしておりますが「学びが楽しい」を目指すため、令和7年度からの4年間、研究テーマを「子供と大人の『したい』を実現する教育課程の編成 ～喜沢小学校に関わる全ての人考える「私は何をしに学校へ？」として、文部科学省の研究開発学校の指定を受けております。今年度は、国語の授業を中心に、「すべての児童が学びに向かい、深い学びを実現する」「多様な児童を前提として、児童が学び方や学ぶペースを自分で考え取り組むことができる授業を実現する」「児童が抱える困難さや課題等個別の状況に応じた活動や支援を行う」ことができる授業づくりに取り組んでいるところです。

また、国語の学習を通して、子供たちの「相手の話を聞き、考えを理解する力」「自分の考えていることを相手に分かりやすく伝える力」を高め、円滑な人間関係づくりにもつなげたいと考えています。

ところで、国語の学習で身に付けるものの一つに「言語感覚」があります。「言語感覚」とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜などについての感覚のことです。これを身に付けることで、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切か直感的に判断したり、話や文章を理解する場合に、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすることができるようになります。学習の積み重ねや継続的な読書で身に付けていきますが、子供たちが生活している日々の言語環境を整えることが言語感覚の育成にはきわめて重要です。

子供たちが、言語の正誤・適否・美醜など望ましい言語感覚を身に付けられるよう、私たち大人が言語感覚を磨いていくことも大切なのだらうと思います。学校では、「ウザイはうざたい」「キモッは気持ち悪い」「キショは気色悪い」と言葉を略さずに使うことで、言葉の適否や美醜を子供たちが実感できるようにと取り組んでいます。

保護者、地域の皆様にも、言語環境を整え、言葉を正しく使うことについてのご理解とご協力をたまわりますと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。